

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇
公開講座 プロになるぞ！！ 第11回
コメント一覧

筆名

「筆名」と「匿名」とは意味合いが違いますね。前者はいわゆるペンネーム、後者は本名を隠す、ですね。いずれもきちんと使い分けなければいけません。

ハック

"Adventures of Huckleberry Finn", 1885年

逍遙・二葉亭

坪内逍遙も二葉亭四迷も大昔だけど、忘れたくないな。先日外語で英語をやった才媛に早稲田の「演博」に行った？ときいたら、「演博って何ですか？」と返された。ぼくには大隈さんの銅像よりも大事な名所なんだけど。外語の才媛ならシェイクスピア→逍遙→早稲田→坪内博士記念演劇博物館と思ったのが愚かだった。筆名といえば二葉亭四迷もそう。文学をやるといったら「くたばってしめい」と言われたからとある。本名は長谷川辰之助。

上座

「かみぎ」と読みます。ちなみに、舞台上で上手、下手といいますが、観客に向かって左を上手stage left、右を下手stage rightになっています。これが日本語だと、舞台に向かって左が「下手」、面白いですね。翻訳者がここで間違えては演出家が仰天することになります。

とてもちいさな声

幽霊の囁き、のつもりかな。

宗教的ともいえる

やはり変だな。平たくいえば「もったいぶった様子で」といいたいところだけど、そこまで翻るわけにはいかないだろうな、そんなところかな？

強い絆で結ばれている家族

考えすぎだな。

じゅうぶんに成熟するための時間と状況

もう大丈夫、自力で改訳できますね。

内面からにじみ出る個性

「内面からにじみ出る」としたので「個性」になったのかな？

私の見立て

いいんだけど、ここには不似合いな言葉だな。判断、診断、選択、観察といろいろあるけど.....

善くも

「良くも」でなく「善」を選んだことにも意味がある。この選択が正しいか否かについては議論があるけど、言葉の選択を行うのが翻訳。

顔立ちも整っていたが

どうも「ハンサム」という日本語を使いたくなかった。

最中

「さなか」と読ませたかったのかな。観察している、とくると、「さいちゅう」になってしまう。

正直に告白します。

こうした翻訳文章は小説ではないな。

やせているけれどもたくましく

いい言い回しではない。

筋骨はたくましくて

すごく好意的な言葉だけど.....

で、

ここだけで「で」を読まれると可笑しいけど、これでも文章の「つなぎの言葉」です。

振る舞いをしていちばん古くからの友人

読点を「振る舞いをして、いちばん古くからの友人」と振ると理解しやすくなりますね。

—

記号は2倍の—がよかった。